

みんなで  
考えよう  
人権・同和問題  
No. 221

## あなた自身の問題です

このコーナーでは、隔月のシリーズで掲載  
しています。これを手がかりに、家庭で人権・  
同和問題について話し合ってみましょう。

想像してみてください。自  
分の子どもが戦争に行き、死  
亡してしまったときのこと  
を。あなたは「戦争によつて  
子どもを殺された」と嘆き悲  
しむことでしょうか。この「殺  
された」という言葉は、自ら  
を被害者と捉えた表現です。  
一方、同じ事実でも、「戦争で  
子どもを殺してしまった」と  
悔やむ人もいるでしょう。こ  
れは、子どもを戦争に行かせ  
てしまった、命を助けてやれ  
なかったという自分の無力さ  
を責めており、自らを加害者

として捉えた言葉です。

そもそも私たちは「戦争が  
起きてしまった」とは言いま  
すが、「戦争を起こしてしまつ  
た」とは言いません。誰も自  
分の責任だと思っていないか  
らです。確かに私たちに、  
直接的に戦争を始めるとい  
う大きな権限はありません。し  
かし、何も考えないまま他者  
に任せきりにして日々を過ご  
していると、気づかないうち  
に重大な事態に巻き込まれて  
しまうかもしれません。です  
から、「自分は傍観者ではな

く、当事者である」と常に意  
識し、自らの判断で行動する  
ことが重要です。

人権問題についても同じで、  
差別の無い明るい社会を誰も  
が望んでいます。その実現の  
ために必要なことは何でし  
うか。「なぜ人権問題が起きて  
いるのだろうか」と考えてい  
るだけでは他人事にすぎませ  
ん。「どうか差別が無くなりま  
すように」と願うだけでは問  
決には至りません。最も大切  
なことは、すべての人が「自  
分は人権問題の当事者である」  
と自覚することです。

想像してみてください。同  
和問題をはじめ、女性、子ど  
も、高齢者、障害者、外国人  
などさまざまな人権問題の解  
決のために、あなた自身がで  
きることを。

## 松永さん長年の絵本寄贈に市長感謝状

2月2日、市民図書館で松  
永一広さん(山代町)の絵本  
寄贈にかかる目録贈呈式があ  
りました。松永さんは、平成

21年から毎年、山代町・東山  
代町内の保育園や小学校に絵  
本を寄贈していて、これまで  
に贈った絵本の数は472  
冊。平成28年度は、山代町内

の保育園と小学校に加え、市  
民図書館に25冊を寄贈する予  
定です。

また、この長年の活動は、  
市内の子どもたちの読書活動  
や家読の推進に大きな役割を  
果たしていることから、その  
功績に対し、この日、塚部芳  
和市長が感謝状を贈りました。



↑松永一広さん(中央左)に大坪保育園児  
がお礼の手づくりメダルをプレゼント

## 郷土の文化財

伊万里・鍋島ギャラリー所蔵 初期鍋島特集⑤

●問合先 生涯学習課文化財係  
(☎)3186

### 色絵七宝輪花更紗文皿

鍋島焼は、有田の岩谷  
川内から大川内山の日峯社  
下窯跡に生産拠点を移し  
て、1660〜70年代に  
かけてこの窯跡で焼かれま  
した。その後、生産の役目  
は、大川内山に新たに築造  
された御用窯跡に引き継が  
れ、1870年(明治3年)  
まで続きます。

御用窯で生産が開始され  
た1680年代以降は、幕  
閣や大名たちが将軍をも  
てなす機会が増加しまし  
た。そのため、将軍へのも  
てなし用の食器類の需要が  
高まり、鍋島焼の質や生産  
量も変化したといわれてい  
ます。質的には、描線が精  
緻化し、色絵の輪郭線を染  
付に統一するなど、厳密な  
規格が作られました。これ  
以降に生産された鍋島焼を  
『盛期鍋島』といいます。

写真の作品は、1660〜

70年代に作られた初期鍋  
島の色絵の変形皿です。染  
付のさわやかな幾何学文を  
色絵の七宝文で囲み、七宝  
文の中心に花菱、四方には  
唐草が描かれています。し  
かし、盛期鍋島に特徴的な  
染付の輪郭線は施されてお  
らず、赤い絵具で輪郭を描  
き、黄と緑で中を塗るとい  
う比較的早い時期の鍋島焼  
の特徴を示しています。こ  
の皿の染付部分と同様の破  
片が、藩役宅跡の裏手から  
出土しています。



『色絵七宝輪花更紗文皿』